

日本学会議哲学委員会主催

公開シンポジウム

「知の受容と創造—思想間の葛藤と対話をめぐって—」

「概念のサーキュレーションと普遍」

中島隆博

# 藤田正勝先生への応答

## ➤ 対話とはそもそも何か

○様々な危険性と不可能性がそこにはある（ポパー、ハイデガー）

○しかし、思想間の対話が必要だとすればどうするのか（クーン、西田）

➤ ⇒隠された前提（とりわけ言語構造とそれに基づく経験のあり方が要請するもの：主体＝主語など）を**ともに**問うことで、事柄を根源的に問う

## ➡ 対話がいかにして「自己変容」にまで至るのか

- ➡ 新しい概念が新しいフレームワークをもたらすだけでなく、言語を揺さぶりながら、普遍にどのように寄与すればよいのか。

Cf. 竹内好「西欧的な優れた文化価値を、より大規模に実現するために、西洋をもう一度東洋によって包み直す、逆に西洋自身をこちらから変革する、この文化的な巻き返し、あるいは価値の上の巻き返しによって普遍性をつくり出す（「方法としてのアジア」）

Cf. François Jullien: the universalizable vs. the universalizing

- ➡ Gerund の対話 dialoguing


# 小田淑子先生への応答

➡ 律法、在家〔世俗〕宗教としてのイスラーム

⇒ キリスト教とりわけプロテスタンティズムが示す、宗教概念、世俗概念、政教分離概念を逆に問い直す

仏教における「戒」、「律」 ex. 最澄大乘戒、道元「清規」の典座（てんぞ）の強調

儒教の「礼」 cf. マイケル・ピュエット（シカゴ大学文科人類学）『道〔ハーバードの人生が変わる東洋哲学〕』、ステファン・アングル「Progressive Confucianism」



- ➡ 日本の宗教伝統の問い直し

キタガワ「宗教の分業」 cf. Thomas Kasulis, allocation (割り当て)


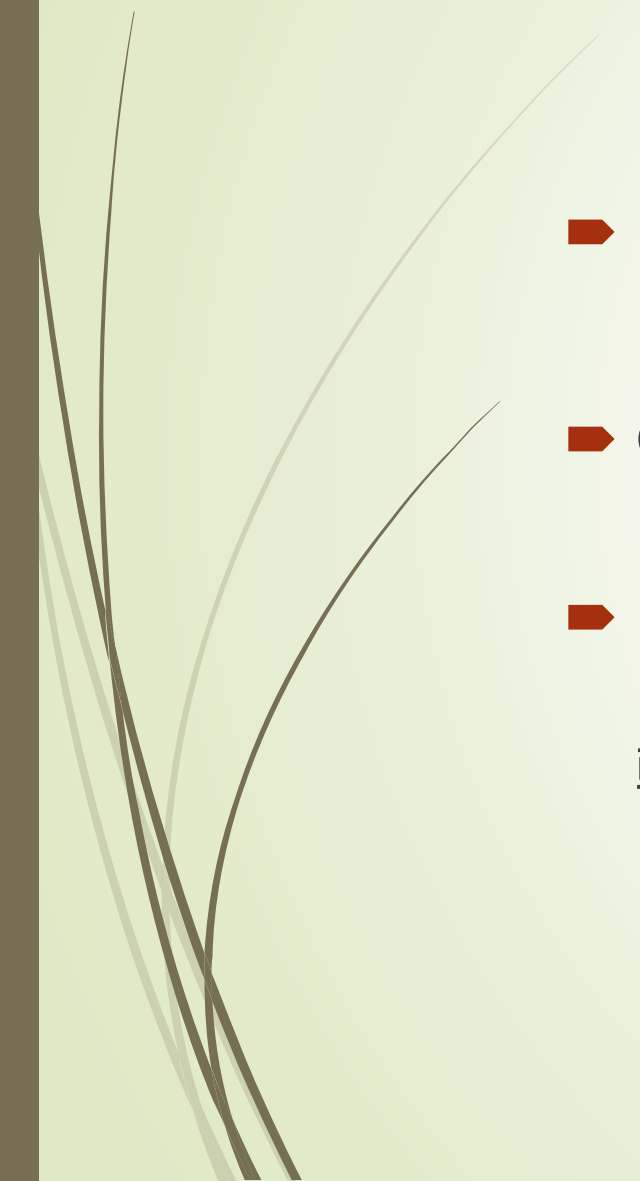
- ➡ 国体、民族共同体と世俗宗教の絡み合い⇒宮沢賢治と国柱会

- ➡ しかし、ローカルな神性や靈性の重要性を考え直す必要はあるだろう。宮沢「地人」（「羅須地人協会」）

- ➡ Contested Conceptの問題

# 小倉紀蔵先生への応答

- 哲学問題としての韓国：「言説の権利」
  - 韓国・朝鮮研究における、日本のアカデミズムが作り上げるヘゲモニー的なパラダイム（植民地収奪論）、とりわけ歴史研究の有した偏重に対する問い直し（植民地近代化論、植民地近代性論、植民地美化論 / 地域研究）
- ⇒ 権力、意識、身体をより繊細に問い、言説を発明することが必要（「帝国の慰安婦」、「併合植民地」）
- アカデミズムの可能性の条件それ自体を問い直さなければ、対話は十分には成立しない。

- 
- 
- ▶ 「現場」から創造すること
  - ▶ Cf. 白永瑞『共生への道と核心現場——実践課題としての東アジア』における歴史学の問い直し
  - ▶ 「核心現場」そして「東アジア」という概念を鍛えることによって、従来のアカデミズムの可能性の条件を批判しながら、韓国を普遍に開くレッスンを試みる。

# 田辺明生先生への応答

- ▶ インド思想を起点とした世界交流史 cf. J.G.A. Pocock, *Barbarism and Religion* (1999-2015). Popperの影響
- ▶ 宗教の公共的役割を問う：霊性と民主主義の双方の再定義を試みる

ヨーロッパの「政教分離」「世俗主義」がじつはかなり独特な考え方

Ex. イギリスの国教会

Ex. フランスのlaïcitéとはいったい何か。宗教排除に至るとすれば、フランスの共和国の理念と矛盾しはしないか



## ▶ 霊性spirituality のサーキュレーション

Vivekananda とシカゴ・万国宗教会議1893年 ⇒ 大拙「日本的霊性」

再び、contested conceptの問題 spirituality vs. spirit

アメリカのトランスセンデンタリズムとプラグマティズム

Bhimrao Ramji Ambedkar (コロンビアでDewey [反ヘーゲル主義としてのプラグマティズム]に師事)

ガンジーとは異なる、仏教に基づく “secular transcendence” (Prasenjit Duara, *The Crisis of Global Modernity*, 2015) あるいは”**dialogical** transcendence”

# 最後に

- ▶ 普遍的なものをめぐる霊性、聖性をめぐる対話をもたらす豊かさ
- ▶ たとえばバタイユがヘーゲルを徹底的に推し進めて、切り開こうとした「超越性の彼方の聖性」（弁証法の彼方の対話）
- ▶ ロバート・ベラーが「倫理的近代」（市民宗教：宗教と民主主義）によって擁護しようとした普遍性     Bellah, *Religion in Human Evolution: From the Paleolithic to the Axial Age*, 2011